

H26 年度 第 3 回一関市総合計画審議会資料

総合計画審議会の意見等への回答

審議会委員からの意見等

農業の担い手問題は、深刻な問題である。総合計画後期基本計画における、H27 年度末時点の新規就農者数の目標値を達成してはいるが、農業には、一定程度の人手が必要である。

若い人が農業を職業に選択しない理由は何なのか。

農繁休業を設けるなど、JA、市職員、会社員、高校生など期間限定で、農作業に従事できるような仕組みがほしい。

意見・質問に対する回答【担当課：農政課】

若い人が農業を職業に選択しない理由

主な理由としては、具体的な農作業内容を知らないことや天候に左右されやすく、安定した収入が見込めないというイメージから職業として考えにくい状況にあると思われます。

当市においては、青年就農者に対する給付金及び貸付金制度及び研修制度を紹介するなど、新規に農業参入しやすい状況づくりに努めております。また、他県などからの中学生の教育旅行の受入れでは、農作業体験を実施するなど、農業の一端を体験させることで、農業への関心を持ってもらう取り組みも行っています。

農繁休業を設けるなど、期間限定での農作業支援について

JAでは平成14年からグリーンヘルパー制度として、労働力を必要としている栽培農家と、働きたい方の双方に有益となるよう、収穫などの農繁期に短期間で利用できる制度はありますが、農繁期の人的不足を解決するための一般の方による作業支援制度には課題があると思われます。

【一般の方による作業支援制度の課題】

1. 作業者への賃金
2. 委託者の農業経験の有無により、作業指導を伴い、作業内容の選別が必要になる
3. 特殊な作業時間帯（早朝のみ）への対応

が考えられ、条件に応じた作業者をマッチングするのは困難と思われませんが、使用者と雇用のマッチングの調整がとれる仕組み作りが必要であると考えております。

H26 年度 第 3 回一関市総合計画審議会資料

総合計画審議会の意見等への回答

審議会委員からの意見等

定住自立圏共生ビジョン等で、平泉町と共同歩調をとるべく記されている。

- ・平泉町の入口のセブンイレブンは、モノトーンの色調の落ち着いた雰囲気となっている中、一ノ関駅前のカラオケ店や隣の黄色のビルは、景観上のテーマにそぐわない。そのような建物を今後どのようにしていくのか。

意見・質問に対する回答【担当課：都市計画課】

定住自立圏共生ビジョンの中で「一ノ関駅屋上看板を世界遺産「平泉」のイメージに合わせるため、リニューアルする。」としているところであります。

平泉町では都市計画で景観地区を定め、建築物や工作物の色彩等強い規制を行っております。

当市では、平成 21 年に「景観まちづくり条例」を制定し、一定規模以上の建築物、工作物、土地の形質の変更及び水面の埋め立てなどを行う場合には、事前に協議していただくこととしております。

条例では、建築物及び工作物の外装の色彩は周辺の景観と調和するよう努めるとしておりますが、平泉町のように強い規制を行うものではありません。

また、あまりに強い規制を行うことは、市街地を賑わいに乏しい景観としてしまうことも想定されるところであります。

なお、建物を新築又は改装される場合には、周辺の景観に配慮し、美しい都市景観の形成に協力していただけるように、理解し、協力していただけますように、景観まちづくりの意識啓発に努めてまいります。